

令和7年度 学校経営の改革方針

鈴鹿市立郡山小学校

I めざす学校像

【天栄中学校区 めざす子ども像】

「互いを認め合い、自らの可能性を信じ、未来を切り拓く子どもの育成」

【学校教育目標】

仲間と支え合いながら、自信をもって意欲的に学び活動する、心身ともにたくましい子どもの育成

【めざす学校像】

「みんなの えがおが うれしい学校」

- 学ぶことが楽しいと思える学校 <自分が笑顔>
- 仲間と共に生きる喜びのある学校 <友だちが笑顔>
- 保護者や地域とともに歩む学校 <地域が笑顔>



【めざす子ども像】

- 自ら学び、協働して粘り強く課題を解決しようとする子 <知>
(やりぬく力・自己肯定感)
- 違いを認め合い、人の気持ちを受け止めわかろうとする子<徳>
(社会性・自制心)
- 健康で安全な生活を心がけ、自ら体を鍛える子 <体>

【めざす教師像】

- 教育に対する使命感と誇りをもち、学び続ける向上心のある教師
- 自らの果たすべき役割について問い続け、他者と協働し主体的に取り組む教師
- 子どもに寄り添い、保護者、地域の人々と協働することを通して信頼され、親しまれる教師

II 学校経営の基本方針

郡山小学校として学校や地域の実態に目を向け、学校の組織力を生かした学校運営に取り組み、保護者や地域から信頼の得られる地域とともにある学校をめざす。

1 学ぶ楽しさ、できる喜びを感じさせる授業づくり（やりぬく力）

○「自ら学び続けることものの育成～未来を切り拓く天栄の子ども」を研修主題とする校内研修に取り組む。

- ・【主体的な学び】課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組むことができる。
- ・【対話的な学び】学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができる。

- ・【深い学び】授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができる。
- ・【個別最適な学び】ICT機器を活用することで、自分のペースで理解しながら、学習を進めることができる。
- ・【協働的な学び】授業や学校生活では、友だちや周りの人の考えを大切にして、お互いが協力しながら、課題の解決に取り組んでいる。
- ・【学びのアウトプット】授業では、各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。

2 自分が認められ、自己肯定感を高められる場づくり（自己肯定感）

- ・あいさつをしたり、表現する喜びを感じたり、自分のよさを発揮できる場を学校生活の中で設定していく。「つづり方」等、成長した姿を見つめる取組を行う。
- ・授業の中で、一人ひとりの考え方を尊重し、正解不正解だけにこだわらず、多様な思考過程を理解する力を育成する。
- ・コミュニケーション力を養うため異学年との交流やファミリー活動に取り組む。

3 人権を大切にし、仲間と支え合い、共に生きる集団づくり（社会性、自制心）

- いじめを許さず、仲間とともによりよい関係つくるための学級経営に取り組む。
- ・「考える道徳」「議論する道徳」の視点を大切にし、道徳の時間や学校生活づくり（生活指導）を通して、人権意識や自分とのかかわり意識を高める。
 - ・子どもの具体的な姿から、実態・課題を把握し、ともに生きるための課題解消の手立てを学び合う人権研修に取り組む。
 - ・不登校傾向の情報を学校全体で把握し、必要に応じて支援会議を開いて対応する。
 - ・ともに生きる視点を大切にした特別支援教育を進める。
 - ・特別な支援を必要とする子どもに途切れのない支援を行うため、特別支援コーディネーターが中心となって支援会議を開く。
 - ・全校共通確認事項に沿って、どの子ども安心して生活ができ、学習ができるようになるための学級づくり、授業づくりの取組を進める。

4 保護者や地域とともに歩む学校づくり

- ・天栄中学校区の小中学校等と連携した取組を進める。
- ・学校運営協議会で熟議し、学校運営を進める。
- ・令和8年度天栄小学校開設に向けて地域と連携して取組を進める。
- ・HPや通信等を発信し、教育活動の情報を積極的に提供し、啓発を進めるとともに、子どもの成長した姿を共有する。
- ・地域ボランティアと子どもが交流する「作志（つくし）の部屋」を開設する。
- ・読み聞かせや学習活動にかかる支援や安心安全のため、地域ボランティアの協力を得る。
- ・公民館等の地域活動の情報を校内で紹介する場を設置する。

5 教職員自ら成長を望み、共に働く喜びを感じられる職場づくり

- ・報告，連絡，相談を大切にし，子どもの成長を自らの成長と重ね，それを意欲とするプロ教育チーム（職員集団）づくりを進める。
- ・校内での授業実践の紹介や交流を行うとともに，指導主事等の支援を受け，教員の指導力向上を図る。
- ・総勤務時間を縮減するため，具体的に取り組み，ワークライフバランスの見直しを進める。

《目標は以下の内容》

- ①定時退校日：月2日設定し90%の職員が退校
- ②放課後の開催で60分以内に終了する会議の割合：70%
- ③休暇取得日数：22日/年 以上
- ④一人当たりの月平均時間外労働 26時間以下
- ⑤月45時間超え時間外労働者：0人
- ⑥年360時間超え時間外労働者：年間0人
- ⑦時間外労働時間：1時間/月 削減
- ⑧会議における項目別時間設定，ズレ勤務制の活用

また，学校経営に取り組む上で，教職員及び児童にはそれぞれ次の3つのことを心掛けた学校生活を営みます。

- ◇ 教師への思いとしては，
 - ・率先してあいさつを行う。
 - ・自分事として考え，行動する。
 - ・温かい言葉がけを行う。
- ◇ 児童への思いとしては，
 - ・ **自分のことは自分でできる**
 - ・ **他の人に迷惑をかけない**
 - ・ **人がよろこぶことをする**



目指す学校像，こども像，教師像実現のために，

- ・一人ひとりの教職員との対話を大切にする。
- ・教職員や保護者・地域への情報発信や学校への理解を増やす。
- ・支えてくれる地域との関係を築き，学校への支援や協力を得る。

このことを学校経営の基本とし，次の5つの点を重点取組事項とした学校経営に取り組む。

【重点取組事項】

◇ 「学力向上」

ICT 端末を効果的に活用

協働的・主体的な学びの充実

◇ 「特別支援教育の充実」

◇ 「不登校傾向児童の早期支援」

◇ 「人権教育の充実」

◇ 「教職員の総勤務時間の縮減」

※地域連携の充実